

研究主題及び副主題

**探究的な学びを通して、
夢の実現に向かう生徒の育成(1年次)
～『天栄ならではの』の教育』を目指して～**

天栄村立天栄中学校 (代表) 校長 濱津 太



I 研究の構想

1 研究主題設定の理由

(1) 生徒の実態から

本校の生徒は、明るく素直で、規律ある落ち着いた学校生活を送っている。しかし、各種調査結果から、自己の将来の夢や目標を見いだせていない生徒が多いこと、ふるさとへ関心をもち、そのよさを理解してはいるものの、将来もふるさとに住み続け、地域に貢献したいと考えている生徒は少ないという実態が判明した。

渋沢栄一という言葉といわれる「夢七訓」に、「夢なき者は理想なし 理想なき者は信念なし 信念なき者は計画なし 計画なき者は実行なし」とあるように、自己の将来像が漠然としていれば、将来に向けた具体的行動を見だし、実行することは困難である。このことを裏付けるように本校の生徒は、学習に対し粘り強い取組を行おうとする側面が弱いことが各種調査結果から明らかになった。

私たちは、生徒が自己の「夢」をもち、なりたい自分の姿をイメージしながら自己の生き方を考えることができれば、その実現に向け、学習に対しても主体的・計画的・継続的に取り組むようになると考える。私たちは、生徒に自己の生き方を考えさせる視座として「ふるさと」を設定した。ふるさとは、自分が生きていくための基盤であり、心の拠り所であるからである。ふるさとを理解する学習こそが、自己の将来像を描く上においても、また今の学習の意義に気づき、主体的に学びに向かう態度を育成する上においても重要な

カギとなる。「ふるさと・夢」をテーマに探究的に学ぶことの意義は、ここにある。

(2) 地域の実態から

天栄村(以下、「本村」という)には、ブナやミズナラの森、大地から湧き出る清水などの豊かな自然環境、長年にわたり伝え受け継がれてきた独自の歴史や文化、米・ヤーコン・長ネギといった自慢の特産品、移住者誘致や手厚い子育て支援など特色ある村づくりを進める行政、農業・醸造業・観光業などの多様な産業が存在する。私たちは、これら本村のよさ・財産である「人・もの・こと」を最大限に活用しながら、生徒がふるさとについて探究的に学ぶことで、生徒はふるさとを深く理解し、自己の生き方を考えるヒントを得ることができるものとする。

また、本村では「ふるさと教育」を推進しており、地域学校協働活動事業として学校と地域をつなぎ、地域全体で子供の教育を支えていく体制が整備されている。このことから、本村には、地域の協力を得ながら学習を推進することができる強みがあるといえる。

(3) 今、学校に求められていることから

これから子供たちが生きる時代は、「厳しい挑戦の時代」、「予測困難な時代」といわれる。学校教育には、このような時代を生きる子供たちに、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために必要な資質・能力の育成が求められている。学習指導要領(平成29年告示)では、「社会に開かれた教育課程」及び「カリキュラム・マネジメント」をその実現のカギとしている。

本県においても「第7次福島県総合教育計画」で「学びの変革」を掲げ、福島のよさを大切にした「福島ならではの」の教育を進めるとともに、それを実現するため、一方通行の画一的な授業から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへの変革を求めている。

以上のことから私たちは、本村のよさ・財産である「人・もの・こと」を最大限に活用し、「ふるさと・夢」をテーマに探究的な学びを実践し、学びを変革しながら『天栄ならではの』の教育の創造を目指していきたいと考え、本主題・副主題を設定した。

2 研究主題・副主題についての考え方

(1)「探究的な学び」とは

「探究的な学び」とは、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく学習のことである。すなわち、習得した知識・技能を活用し、「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」の探究のプロセスにより、「考えるための技法」を駆使しながら学習活動を発展的に繰り返し、物事の本質を見極めようとする学習のことである。

(2)「夢の実現に向かう生徒」とは

「夢の実現に向かう生徒」の姿とは、ふるさとのよさ・財産である「人・もの・こと」に触れ、「探究的な見方・考え方」を働かせながら探究的に学ぶことを通して、課題を解決するとともに、ふるさとの一員として何ができるか考えたり、今の自分を見つめ、必要とする資質・能力を身に付けようと努力したりする生徒の姿である。また、総合的な学習の時間を核とした3年間の学習を通して、将来自分がなりたいと思う姿を目指そうとする生徒の姿である。

資料1

(3)『天栄ならではの』の教育」とは

『天栄ならではの』の教育」とは、本村のよさ・財産である「人・もの・こと」を最大限に活用した探究的な学びを通して、ふるさとの特色について理解を深め、そのよさ・魅力を再認識し、郷土愛や郷土への誇りを高め

るとともに、ふるさとの未来像や自己の生き方を考え、自己の夢の実現につながるための教育のことである。

3 研究仮説

総合的な学習の時間を核とした、ふるさと天栄についての探究的な学習の充実を図り、よりよく課題を解決し、「夢の実現に向かう力」を育てる実践を行えば、夢や目標を自ら設定し、実現しようと取り組む生徒を育成できるであろう。

4 研究の内容と方法

(1)「ふるさと・夢プロジェクト」の実践

本校では、総合的な学習の時間を「ふるさと・夢プロジェクト」と題し、本村の「人・もの・こと」を最大限に活用した『天栄ならではの』の教育の創造を目指し、1学年では、過去から伝え、残されてきたもの・ことを知ること（「ふるさと天栄を知る」）、2学年では、現在本村で活躍している人から学ぶこと（「ふるさと天栄から学ぶ」）、3学年では、ふるさとの未来像や自己の生き方を考えること（「ふるさと天栄の未来を考える」）を視点とした探究的な学習を行う。このように3年間を通して、生徒が過去・現在・未来の視点でふるさとについて発展的に学ぶことで、将来の夢や自己の生き方を自分の姿に重ね合わせながら学習することが期待できる。また、生徒が探究のプロセスに沿った問題解決的な活動を発展的に繰り返し学習することを通して、「夢の実現に向かう力」を育成できるように工夫していく。

資料2

生徒がふるさとについて深く学ぶためには、ふるさとを熟知する地域人材から学ぶことが最良の手段である。私たち教師は、探究的な学びのコーディネーターの役割を担う。地域人材を活用し、学校の教育活動に参画してもらうことは、「社会に開かれた教育課程」の実現にもつながる。そこで、ふるさとの魅力や課題を知るために「村長による特別授業」

や地域人材を講師とした「ふるさと講座」を開設する。また、各学年の探究の視点に基づいたふるさとの未来像や自己の生き方を考えるための探究的な学習プログラムの構築を目指す。1学年では、「ふるさと魅力発見学習」として、本村の自然や歴史・文化といったふるさとの魅力を調査したり体感したりすることを通して、ふるさとの魅力や未来に伝え、残したいもの・ことを知る学習を実践する。2学年では、「ふるさと魅力発信・職場体験学習」として、ふるさとの特産品の魅力を発信するとともに、村内事業所での職場体験学習を通して、働くことの喜びや苦勞を体感し、自己の勤勞観・職業観を醸成し、将来の自己の生き方のヒントを探る学習を実践する。3学年では、「ふるさと未来探究学習」として、村づくりの現状や課題を探究することを通して、ふるさとの地域活性化や未来のふるさと像について考え、ふるさと天栄のあり方を提言したり、自分の将来の生き方を考えたりする学習を実践する。

資料3

(2)「夢の実現に向かう力」の設定

私たちは、「夢の実現に向かう力」を、各教科等と総合的な学習の時間における学習の中で共通に働く資質・能力であり、各教科等と総合的な学習の時間との往還の架け橋の役割を果たすものと捉えている。そこで「夢の実現に向かう力」を、学習指導要領に示されている学力の3つの柱①「知識及び技能」、②「思考力、判断力、表現力等」、③「学びに向かう力、人間性等」の3つの観点で整理し、それぞれ、①「課題の解決に必要な知識及び技能」、②「問いを見だし、その解決に向けて仮説を立て、調査して得た情報を基に考える力及び考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ・表現する力」、③「探究的な学習に主体的・協働的に取り組む態度及び互いのよさを生かし持続可能な社会を実現するために自ら社会に参画しようとする態度」と定義した。これらの資質・能力は、全

ての学習の基盤となる資質・能力であり、生徒が将来生きていくために必要な「基礎的・汎用的能力」と重なるものである。1年次の研究においては、特に「思考力、判断力、表現力等」にあたる②の資質・能力に焦点化した研究を推進することとする。

本研究で目指す「夢の実現に向かう力」を育成するためには、探究のプロセスにおいて、生徒が「何ができるようになるか」を明確化し、課題解決を通して育成を目指す資質・能力を具体化する必要がある。私たちが、この資質・能力の具体化のための手がかりとしたのが、やまぐち総合教育支援センター(2021)の「探究によって育まれると期待される力」である。これは、探究のプロセスの各段階において、学習者が学びを通して身に付けることが期待される力に焦点を当て、具体的な力として整理したものである。私たちは、これを基に探究のプロセスごとに育成したい資質・能力を具体的に設定し、授業実践を通して、その育成を図っていく。

(3)各教科等と総合的な学習の時間との往還による授業改善

探究のプロセスを支える探究的な見方・考え方については、学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編に「各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方」とある。総合的な学習の時間において、各教科等で育成された見方・考え方を総合的に活用するためには、各教科等の学習と総合的な学習の時間の学習との往還が重要である。それぞれの学習が相互に作用し合うことが、社会で生きて働く資質・能力の育成につながるからである。私たちは「夢の実現に向かう力」を往還の架け橋として、各教科等で育成された見方・考え方を総合的な学習の時間で総合的に活

用できるよう授業改善を図っていく。**資料4**

また、学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善が求められている。その実現のための手立てとして、私たちは単元構想、思考の可視化、協働的な学びに着目した。手立て①として、単元構想の視点を「子供が見方・考え方を働かせて学ぶこと」、「資質・能力が育成されるように指導すること」の2点を掲げ、教科研究計画を作成する。また学習指導案には、探究のプロセスを取り入れた単元計画と本単元の学習において育成する「夢の実現に向かう力」を明記することで、総合的な学習の時間との往還を意識した指導ができるように工夫する。手立て②として、授業を実践するにあたり、思考の可視化と協働的な学びの視点を取り入れた授業改善に努める。なぜなら、思考を可視化し、多様な他者と協働し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重しながら学ぶことは、様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手を育成するための有効な手立てであるからである。**資料5**

II 研究の実際

1 「ふるさと・夢プロジェクト」の実践

「ふるさと・夢プロジェクト」では、探究的な学びを展開するにあたり、キャリア教育やSDGsの視点を重視し、異なる多様な他者と協働して主体的に課題解決を図る学習活動を基本として実践している。また、特色ある学習活動として、次の3つが挙げられる。

一つ目は、探究的な学びで必要となる様々な知識や学習スキルの習得のために、「NHK for school」の番組コンテンツを活用したことである。「高齢化社会の問題」や「地域の活性化」、「課題の見つけ方」、「情報収集の仕方」、「アンケートの作り方」など必要な知識や学習スキルをそれぞれ10分程度で効率よく学ぶことができ、探究的な学び方を指導する上でも有効であった。**資料6**

二つ目は「整理・分析」、「まとめ・表現」

の段階で、思考ツールやタブレット端末を活用したことである。思考ツールは、調査したことを基に、自分たちの考えを自由に出し合い、その考えを付箋に記録しながらKJ法を使って分析するなど、思考を深める学習において効果があった。タブレット端末は、アンケート調査結果の集計・分析、発表用スライドの作成、プレゼンテーションの場面で効果的に活用することができた。**資料7**

三つ目は、地域人材を講師とした特別授業を実施したことである。最初の授業として「村長による特別授業」を実施した。村長から直接村づくりへの思いや本村の未来像について話を聞くことで、ふるさとのよさや課題を再認識するとともに、その後の学びへの意欲付けとなった。また、地域人材を活用した「ふるさと講座」を実施したことで、講師の専門性を生かした指導を受けることができた。村長をはじめ多くの地域人材を講師に、特別授業を実施できたのは、本村教育委員会所属の地域コーディネーターの働きが大きい。学校の負担を減らすとともに、学校と地域とをつなぐ架け橋となっている。**資料8**

各学年の探究的な学習の実践内容については、以下の通りである。

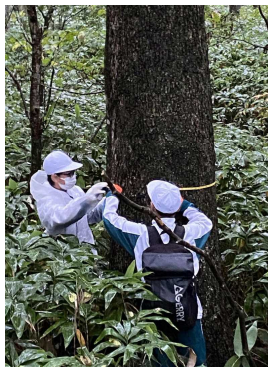
(1) 第1学年の実践について

1学年は、「ふるさと天栄を知る」をテーマに、「ふるさと魅力発見学習」を行い、未来に伝え、残したいもの・ことについて、探究的な学習を行った。主な学習活動として、次のことを実践した。

ア ふるさと講座「ふるさとの自然と歴史」では、地域人材である2名の講師から、本村に残されている古墳や城跡などの史跡や神社・仏像などの文化財及び本村湯本地区の自然環境の概要について学び、探究に必要な基礎的な知識を習得することができた。この授業で学んだことを踏まえ、「森林を残し伝えるためにはどうしたらよいか」、「将来に伝え残したいふるさとの歴史・伝統は何か」とい

った課題を設定した。

イ 「情報の収集」を目的に、森林環境学習では、地域人材である講師の案内により本村湯本地区の森林を散策し、様々な植物の観察や樹木の幹の太さを測定し樹齢を推定する体験学習を行った。湯本地区には70年前、軍用馬を飼育する牧場があったことや住民が炭焼きを生業としていたこと、そのため現在よりも樹木が少なかったこと、時代の変化に伴い自然環境も変化し、自然環境の保全が大切であることなどを学んだ。



ウ 「情報の収集」を目的に、本村の歴史や文化を学ぶために、地域人材である講師の案内により、村内にある文化施設と龍ヶ塚古墳を見学し、貴重な文化財が人々の長年の努力によって多数保存されていることを学んだ。エ ふるさと講座や森林環境学習などで学んだことを基に、収集した情報を整理・分析しながら課題解決に向けて探究活動を行った。探究したことを学習の成果としてポスターにまとめた。また文化祭では、学習した内容を発表用スライドを用いて発表したり、学習したことを基に自分たちで創作したシナリオで劇を行ったりしながら学習の成果を保護者や地域の方々へ発信することができた。

資料9



写真2 文化祭での発表

オ ふるさと講座「職業人から学ぶ」では、郵便局員、村役場職員、地元企業社員、パン職人の4名の講師から直接話を聞くことで、働く喜びや苦勞、働く意義について学んだ。また、「職業調べ学習」では、将来自分のなりたい姿を捉えさせることをねらいとして、

自分の興味がある職業について調べ、レポートにまとめる学習を行った。

(2) 第2学年の実践について

2学年は、「ふるさと天栄から学ぶ」をテーマに、「ふるさと魅力発信・職場体験学習」を行い、ふるさとの特産品の魅力発信や、村内事業所での職場体験学習を行った。

ア ふるさと講座「生産者から学ぶ」では、本村の特産品である米、長ねぎ、ヤーコンを生産する5名の講師から、働くことの喜びや苦勞、生産者としての思いや願いを聞くことで、特産品のPRポイントを学んだり、自己の生き方を考えるきっかけとしたりすることができた。また、生産者からは、特産品をPRするためにキャラクターを考案してほしいとの依頼を受けた。

イ 「情報の収集」を目的に、ふるさと講座「働く人から学ぶ」では、職場体験学習の事前学習として、村内の事業所で働く3名の講師（保健師、杜氏、牧場長）から直接話を聞いた。「働くとは、人のために動くことである。自分の行動が必ず世の中の誰かのためになっている。」「看護師をしている時の夜勤が大変だった。生活のリズムも崩れてしまうので体力が必要である。」「間違えることは良いことである。間違えない限り成功はない。間違いの中に気づきがある。チャレンジしてほしい。」という話から、働くことの意義・喜び・苦勞について学んだ。

ウ 「情報の収集」を目的に、農家、公共施設、民間企業といった村内の事業所の中から自分が希望する職種の事業所を選び、職場体験学習を行った。令和4年度は、村内16の事業所の協力を得た。各事業所では、指導を受けながら実際に仕事を体験したり、職員に働くことの意義や職業を選んだ理由を質問したりした。このように職場体験を通して、生徒は働くことを体感し、働くことの喜びや苦勞、働くことの意義について学ぶことができた。事業所への依頼は、地域コーディネーターが

行い、学校の負担を減らしている。



写真3 職場体験学習

<生徒の振り返りから（2年生）>

働くことや将来のことについて、考えたこと
働くことは、誰かの役に立つため、必ず
誰かしの役にはたっているから、その責任を
しっかりと持ち、一つの仕事をしっかりとやり、
ないに行うことなので、と思いました。

エ 「まとめ・表現」として、文化祭において、職場体験で学んだことや本村の特産品のよさをPRし、ふるさとの魅力を発信した。特産品のPRのため、米、長ネギ、ヤーコンをモチーフにしたキャラクターを考案した。また、考案したキャラクターを用いたPRグッズを本村「こども未来応援事業」を活用し、広告代理店と共同開発し、製品化を図った。2年次の学習では、このキャラクターを活用して、本村の特産品をさらにPRする活動を行う予定である。

資料10

（3）第3学年の実践について

3学年は、「ふるさと天栄の未来を考える」をテーマに、「ふるさと未来探究学習」を行い、村づくりの現状や課題について探究的な学習を行い、持続可能な村づくりを提言することを目指した。

ア ふるさと講座「ふるさと天栄」では、4名の本村役場職員を講師として、「環境保全」、「防災対策」、「地域活性化」、「少子高齢化」をテーマに、本村の取組や課題についての概要を学ぶことで、探究に必要な基礎的な知識を習得することができた。

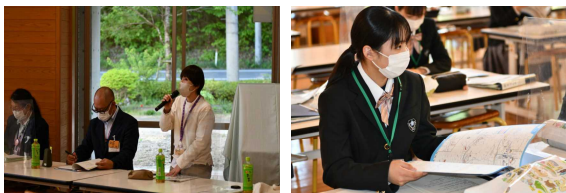


写真4 ふるさと講座「ふるさと天栄」

イ 将来の生き方を考えるために、「命の教育」を行った。助産師から「思春期を迎えている今、心と体の変化をしっかりと受け止め、自分の体を好きになって大事にしてほしい。自分のことを大事にしなければ、将来赤ちゃんをかわいがるができない。」という講話から命の大切さ、自分のことを大事にすることの意味を学び、自分の生き方を考えるきっかけになった。

ウ 「認知症サポーター講座」では、本村社会福祉協議会の協力を得て、これからの高齢化社会を担うべき存在になることを自覚するために、認知症に関して理解を深める学習を行った。高齢化の現状や認知症の方々へのサポートの在り方を学び、地域の一員として何ができるか考えるきっかけになった。

エ ア～ウの学習を踏まえ、「持続可能な村づくりへの提言」と題して、ふるさとの未来について、地域活性化、少子高齢化、防災、障害者福祉をテーマに「湯本地区の高齢者が安心して暮らすためにはどうしたらよいか」、「災害の被害を小さくするために何ができるか」といった課題を設定し、探究的なプロセスに沿って課題を追究した。「情報の収集」段階では、本村役場職員への聞き取りや村民へのアンケート調査を実施した。「整理・分析」段階では、タブレット端末や思考ツールを活用した。「まとめ・表現」段階では、未来の村づくりへの提言としてまとめ、文化祭で発表した。「地域の活性化のために既存の施設を活用した交流場所をつくること」、「高齢者の買い物のためにバスやタクシーを活用すること」、「防災意識を高めるために防災放送を工夫すること」など村づくりについて提言することができた。

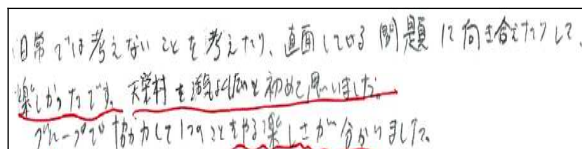
資料11



写真5 文化祭での発表

これらの学習の成果は、村づくりに対する中学生の意見として本村役場へ提供した。また、地域活性化に関する中学生の意見として、現在本村で進めている「ふるさと公園」整備事業に関して、要望を伝えた。

<生徒の振り返りから（3年生）>



2 「夢の実現に向かう力」の設定 資料12

私たちは、探究のプロセスごとに育成した資質・能力を具体化するために、まず教科ごとに、やまぐち総合教育支援センターの「探究によって育まれると期待される力」の中から、教科の特性に応じて教科指導に関連のある力を選び出す作業を行った。次に、選び出した力を探究のプロセスごとに分類し、関連性を見いだした。このような作業を経て、「夢の実現に向かう力」の思考力、判断力、表現力等の観点に該当する力を田村学（2015・2018）を参考に、探究のプロセスごとに具体的な資質・能力として、次のように設定した。

（1）「課題の設定」における資質・能力

ア 地域や社会に広く目を向け、学習の意図や目的を明確にして課題を見いだす力

イ 解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる力

（2）「情報の収集」における資質・能力

ア 課題解決に必要な情報を見通し、目的に合った情報を収集する力

（3）「整理・分析」における資質・能力

ア 問題状況における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特色を見付ける力
イ 事象や考えを比較したり因果関係を推論したりして考え、視点を定めて多様な情報を分析する力

（4）「まとめ・表現」における資質・能力

ア 調べたり考えたりしたことをまとめ、相手や目的、意図に応じて論理的に表現する力
イ 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や

生活に生かそうとする力

これら（1）～（4）の資質・能力を俯瞰すると、「考えるための技法」とも重なることに気づく。特に「整理・分析」段階における資質・能力に顕著に現れている。私たちは、これらの資質・能力を育成するために、探究のプロセスを踏まえ、各教科等と総合的な学習の時間の往還を意識した授業改善に取り組んだ。

3 各教科等と総合的な学習の時間との往還による授業改善

私たちは、各教科等と総合的な学習の時間が往還することで、生徒が身に付けるべき資質・能力を効果的・効率的に育成できるものと考え、各教科等においても、探究のプロセスを意識した授業づくりを行い、互見授業を通して、指導の在り方を研修した。

以下、実践内容とその考察について、探究のプロセスに沿ってまとめる。

（1）「課題の設定」における実践と考察

「課題の設定」の段階では、見通しをもつ力を重視している教科が多い。

理科では、「身の回りの物質」の授業で、実験前にアルコールと水の混合物を加熱してできた物質の性質を予想する時間を確保したことで、生徒は実験のポイントを考えながら見通しをもって、主体的に学ぶことができた。

<互見授業の記録から>

予想から実験へ、そして考察という理科ならではの手法・工夫が見られ、自ずと見方・考え方を働かせる場面が創出されていた。考察を深めていく段階は、各グループが主体的に取り組む姿を確認でき、学びが一人一人に成立していることがわかった。

保健体育科では、「創作ダンス」の振り付けを考える授業の導入段階において、振り付けを考える視点（曲調・リズム、動作のメリハリ、同調・隊列）を示したことで、どのような動きが音楽に合うのかを見通しながら創作活動を行うことができた。

「ふるさと・夢プロジェクト」の学習にお

いても課題設定の際に、解決の見通し・手立てをもたせることは重要である。理科で実践した既習事項をもとに予想させて実験方法を立案する科学の方法が、総合的な学習の時間の「課題の設定」の段階で解決の見通しをもたせ、学習計画を立案する場面で生かされた。

（２）「情報の収集」における実践と考察

「情報の収集」の段階では、数学科・英語科・音楽科・保健体育科の実践から往還が認められる事例が挙げられた。具体例を示すと、数学科では、「比例のグラフ」の学習において、比例定数が正と負の数におけるグラフ上での共通点・相違点を調べさせ、解決に必要な情報を収集させたことで、課題解決につなげることができた。また「平行と合同」の学習において、角度を求める問題の解決に必要な既習事項を挙げて確認させたことで、生徒は解決の見通しをもつことができた。しかし、教科の特性から、解決の見通しをもたせるためには、基礎・基本となる知識の定着が必要となる。本時の授業では、基礎・基本の定着が十分でなかったために、解決の見通しをもたせるまでに時間を要したという課題が見られた。



写真 6 数学科の授業

音楽科では、「合唱の楽しみ」の授業において、「手紙」という曲へ込めた自分たちの思いを表現させた。その際、形式・強弱・速度・音色等の音楽を構成する要素を掲示し、要素同士の関わりに注目させたことで、生徒がより深く作品を鑑賞するポイントを理解し、曲に込められた思いに気づき、自分たちの表現の改善につなげることができた。

保健体育科では、「創作ダンス」の授業において、考える視点を示しながら他者とのコミュニケーションを通して振り付けを考えさ

せたことで、多様な意見の中から有効な考えを取捨選択し、振り付けを創作することができた。また、動きに関する多様な考えの中からリズムに合わせた動きの大切さに気付くことができた。

英語科では、ユニバーサルデザインについて調べる場面で、他者との意見交換から生まれた疑問点をタブレット端末を活用しながら情報収集したり、自分たちの寸劇に必要な情報を整理したりすることができたことは、総合的な学習の時間の中で培った資質・能力を活用したことによるものである。

（３）「整理・分析」における実践と考察

「整理・分析」の段階を「自己の夢の実現に向かう力」の育成ポイントと位置付けた教科が多く、複数の情報に目を向け共通点や相違点を見付けたり、必要性を判断して取捨選択したり、情報同士を組み合わせる新しい関係性を見いだしたりする資質・能力の育成を意図して授業実践を行った。

国語科では、「まとめ・表現」の「根拠を明らかにして主張する力」との関連から、文章を推敲する学習において、根拠をより信頼性の高いものとするために、目的や相手を意識して必要なふさわしい言葉や表現を検討させる場面を設定した。2年生の「多様な方法で情報を集めよう」の単元で、1年生に中学校生活に早く慣れてもらう目的で「学校生活紹介ガイド」の作成を行い、相手に有益で分かりやすい文章にするために推敲する学習を行った。この学習が、総合的な学習の時間において、本村の特産品をPRするためのキャッチコピーを考案する学習に発展し、特産品のよさを伝える言葉・表現を検討する場面で往還が見られた。

社会科・英語科では、複数の情報の中で共通点や相違点を見いだす力の定着に重点を置いた。各教科の授業の目的は様々であったが、目的に合う情報を選別したり、一定の傾向を見付けたりすることに生かされていた。特に

社会科では、「地方自治と私たち」の単元で、地域社会をよりよくするためにできることを生徒に考えさせる授業を行ったが、本村と他市町村との比較、生徒の過去と現在の考えとの比較といった複数の見方・考え方を用意し、思考ツールを活用して課題を追究させたことで、多面的・多角的な思考をもたせることに成功した。この学習は、総合的な学習の時間における「ふるさと未来探究学習」での「持続可能な村づくりの提言」の学習との往還が図られた授業であり、総合的な学習の時間の学びが社会科の学習でも生かされた。



写真7 社会科の授業

<互見授業の記録から>

生徒が選んだテーマ「在宅福祉サービス」は、まさに総合学習との「往還」の現れだと実感した。総合で学んだ「思考ツール」の活用も、立派に「往還」を実現していた。思考ツール「クラゲチャート」があったことで子どもたちの視点も集まり、協働的な学びの成立につながった。考えの可視化によって表現を共有することができた。

数学科・音楽科では、複数の情報を組み合わせることで新たな関係性を創り出す力を育成しようと試みた。両教科ともに既習事項を情報としてもたせた上で、「より質の高いものにするためには」（音楽科）、「既習事項を組み合わせるよさは何か」（数学科）といった見方・考え方で思考・判断させて上記の力の育成に迫る実践となった。

（４）「まとめ・表現」における実践と考察

「まとめ・表現」の段階では、英語科の実践において、生徒が着実に力を付ける姿を確認することができた。

英語科では、伝える相手や目的に応じて表現する力・考えを表明する力に成果が見られた。即興的に、あるいは時間内で表現が求められる場面で一定の文章量や特定の言語材料

使用をクリアして表現することができた。総合的な学習の時間で探究的な学びを経験し、教科で見方・考え方が働く場面を積み重ねてきたからこそ実現したものと考えられる。



写真8 英語科の授業

Ⅲ 研究の成果と課題

1 研究の成果

（１）ふるさと天栄の「人・もの・こと」を最大限に活用しながら、「ふるさと魅力発見学習」、「ふるさと魅力発信・職場体験学習」、「ふるさと未来探究学習」といった各学年の探究の視点に基づき、ふるさとの未来像や自己の生き方を考えるための探究的な学習プログラムを構築することができた。また、本村教育委員会はもとより、本村役場や地元企業、地域人材と総合的な学習の時間のねらいや目的を共有しながら学習プログラムを構築したことで「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、一歩前進することができた。

（２）生徒は、「ふるさと・夢プロジェクト」及び各教科等の学習を通して、探究のプロセスを踏まえながら、年間を通して螺旋的・発展的に探究的な学習に取り組むことができた。このことを裏付けるように、学習に関する意識調査（令和４年６月と令和５年３月に、全校生を対象に９項目４段階評価で実施。以下同じ。）で86%の生徒が探究のプロセスによる学習に取り組んでいると肯定的に評価している。

資料13-①

（３）「ふるさと・夢」をテーマに、様々な地域の方々の協力を得ながら探究的な学習に取り組んだことで、生徒は自己の生き方について深く考え、将来の夢や目標を見いだそうとする姿を確認できた。意識調査の結果を見ると、「夢や目標をもっている」という質問

の肯定的評価の割合が事前と事後を比べると7ポイント増加している。

資料13-①

<生徒の振り返りから(3年生)>

総合学習をやってみて、この天栄村について深く知ることができて、とても楽しかった。この学習を通して、村役場の仕事に興味を持ちました。

(4)「ふるさと」をテーマに探究的な学習を実践したことで、生徒はふるさとに関心をもって学び、理解を深めるとともに、ふるさとのよさを再認識し、郷土愛や郷土への誇りをもってしていると肯定的に捉えている生徒が多いことが確認できた。意識調査において、ふるさとへの関心度を検証する質問に対して肯定的評価をしている生徒の割合が事前と事後を比べると8ポイント増加、「自慢できるふるさとである」と認識している生徒が90%以上という結果となった。

資料13-①②

(5) 意識調査において、「勉強するときは、自分の計画に沿って行う」という質問に対する生徒の肯定的評価の割合は、65%から76%と11ポイント上昇している。また、学習に対する粘り強さを検証する質問に対して、生徒の肯定的評価の割合は80%と同じであるが、「あてはまる」と自信をもって回答している生徒の割合が7ポイント増加している。これらの結果からも、生徒の学習に対して計画的に粘り強く取り組もうとする意識が高まったといえる。要因として、自分の将来の夢や目標を見だし、自己の将来像が明確になってきたことにより、学習意欲に高まりが見られたものと考えられる。

資料13-②

(6)「夢の実現に向かう力」を探究のプロセスごとに育む資質・能力として具体化し、様々な場面で活用可能となる基礎的・汎用的な資質・能力として設定することができた。各教科等において、「夢の実現に向かう力」の育成を意識して指導したことで、総合的な学習の時間との往還が認められる実践例を確認することができた。意識調査の結果からは、70~80%の生徒は肯定的に評価している。し

かし、事前と事後を比較すると往還に関する意識に顕著な高まりは確認できなかった。「夢の実現に向かう力」の中から各教科等で重点的に指導する資質・能力を明確にし、その資質・能力が総合的な学習の時間のどの場面で活用できるか授業者が意図をもって指導できるよう改善を図っていききたい。

資料13-③

2 今後の課題

(1) 各教科等と総合的な学習の時間との一層の往還を図るためには、教科等横断的な視点での「カリキュラム・マネジメント」が不可欠である。各教科等と総合的な学習の時間の内容を有機的に関連付けることで、より質の高い学びが期待できる。次年度は、単元配列表を作成し、総合的な学習の時間を核とした教育課程の編成を目指していききたい。

(2)「夢の実現に向かう生徒」の育成に関して、自己の夢や目標を見だし、その実現に向けて学習に対する意識の高まりは確認できたものの、持続可能な社会を実現するために自ら社会に参画しようとする態度の育成までには至らなかった。学びの中で「学んだことをどのように役立てていくのか」、「ふるさとのために何ができるか」といった「問い」をもたせ続けることの必要性を感じている。今後は、学習したことを振り返る時間をしっかり確保し、上記の2つの「問い」を考えさせるように指導改善を図りたい。

資料13-③

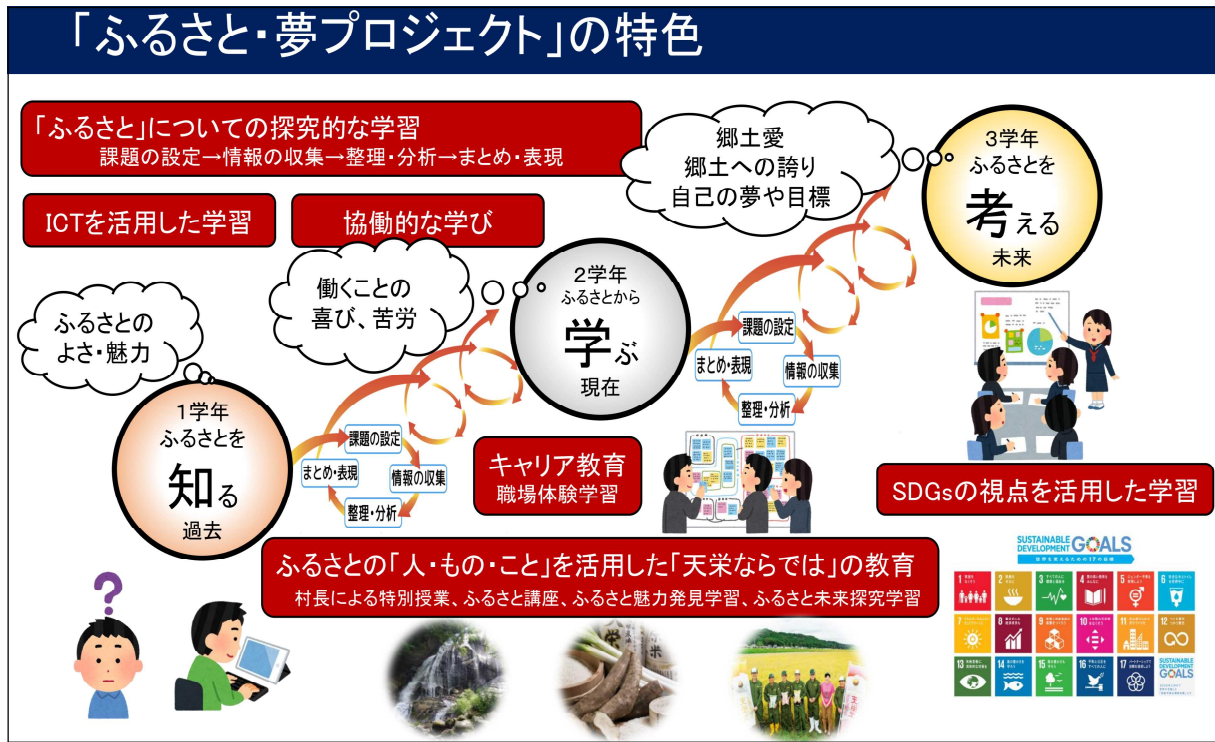
(3)「見方・考え方」を働かせることは、各教科等の本質について学ぶことに直結する。そのことが資質・能力の育成にもつながる。深い学びを実現するためにも「見方・考え方」についての研究を深め、私たち教師が教科の本質をとらえながら授業実践を行う必要がある。その手立てとして「問い」の工夫を重視して授業改善を図っていききたい。

上記の研究の成果と課題を踏まえ、2年次の研究においても、継続して『天栄ならではの教育』の創造を目指していくことをお誓い申し上げ、終わりの言葉としたい。

資料 1



資料 2



資料3 年間指導計画 (例: 3 学年)

総合的な学習の時間 年間指導計画 3 学年 (中学校 7 0 時間)

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
探究課題	村づくりや地域活性化のために取り組む人々から学び、ふるさと天栄の未来や自分の将来を考える。											
単元名	ふるさと天栄の未来を考えよう (70時間)											
ねらい	ふるさと天栄の未来や自分の将来についての探究的な学習を通して、地域が抱える現状と課題を明らかにし、課題の解決に向けて主体的に情報を収集したり、見出した事実や関係と比較したり因果関係を推論したりして考え、地域と自分との関わりを理解するとともに積極的に行動しようとする態度を育てる。											
計画	学習活動 (村の現状) 1 オリエンテーション ① 2 村長による特別授業 ① 3 ふるさと未来探究学習 【課題の設定】② ○ 動画を視聴し、課題の見つけ方を理解する。 ○ 将来のふるさと像について考える。 ・ ふるさとの魅力と課題 ・ 将来の目指すべき村の姿 ○ 動画を視聴し、現代社会が抱えている課題について理解を深め、課題や疑問点を見出す。 4 講座「ふるさと天栄」③ ○ 村づくりや地域活性化の取組に関わる人々の思いや願いを聞くことを通して、地域の現状と課題を明らかにする。 ・ 企画政策課 ・ 住民福祉課 ・ 総務課 5 修学旅行事後学習 ⑥ ○ 旅行で見学・体験したことを旅行記にまとめる。(B④) 6 命の教育 ① ○ 生命の誕生や出産について学び、命の尊さや大切さを考える。 【課題の設定】② ○ 「ロジックツリー」をもとに、グループで課題について話し合い、課題を設定する。 ○ 課題についての調査計画を作成し、学習の見直しをもち。	育成を目指す資質・能力 ふるさについて主体的に探究しようとする (C①) ・ 課題の見つけ方 「天栄村を住みやすい村にするためには、どんな村づくりが大切なのだろう」 ・ KJ法 ・ ウェビングマップ GTの話や統計資料から課題を見出す。(B①) 調査・見学したことを分かりやすくまとめる。(B④) 生命の大切さを理解する (A) 仮説を立てて検証方法を考える。(B①)	学習活動 (村の未来) 7 ふるさと未来探究学習 【情報の収集】⑦ ○ 設定した課題についての情報を収集する。(関係課、関係者等) ・ 住民福祉課、産業課 ・ へるすびあ ○ アンケート調査 8 認知症サポーター養成講座 ② 9 高校説明会 ⑥ 【整理・分析】⑤ ○ 収集した情報を、「重要」「緊急度が高い」等の視点を決めて分析し、今後の取組の方向性を考える。 【まとめ・表現】⑥ ○ それぞれの課題についての解決策や取組のアイデアをまとめ、文化祭や模擬議会でプレゼンする。	育成を目指す資質・能力 目的に応じて手段を選択し、情報を収集している。(B②) ・ 情報の集め方 課題の解決に向けて、適切に情報を収集する (B②) ・ 電話のかけ方 ・ アンケート調査の仕方 ・ 礼状の書き方 ・ インタビューの仕方 認知症の高齢者をサポートする方法を知る (A) 高校の特色を知る (A) 視点を決めて多様な情報を考えるための技法を用いて分析する。(B③) ・ 思考ツール ・ 表計算ソフト 相手や目的に応じて、意図を明確にして表現する。(B④) ・ プレゼンテーションソフトを使ったまとめ方 (技術科) ・ 発表の仕方 (国語科)	学習活動 (自分の将来) 10 自分の進路実現に向けて 【課題の設定】⑤ ○ 自分の進路の実現に向けて課題を持つ。 【情報の収集】⑩ ○ 自分の進路の実現に向けて、必要な情報を収集する。 【整理・分析】⑤ ○ 自分の進路実現に向けた取組を見直し、改善する。 ○ これまでに考えたり取り組んできたことの結果と課題を明確にし、発信する内容と方法を考える。(相手意識、目的意識) 【まとめ・表現】⑧ ○ 自分の進路実現に向けて取り組んできたことを志願理由書や面接等で表現する。	育成を目指す資質・能力 自分の進路実現に向けて計画を立案する。(B①) 必要な情報を収集し、視点を決めて分析する。(B②③) 視点を決めて多様な情報を分析する (B③) 相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。(B④)						

育成を目指す資質・能力 A: 知識及び技能 B: 思考力、判断力、表現力等 ①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現 C: 学びに向かう力、人間性等 ①主体性 ②自己理解 ③協働 ④他者理解 ⑤地域貢献

※ 年間指導計画の作成にあたっては、大分県教育委員会でご公開している様式を参考とした。

単元指導計画 (例: 3 学年)

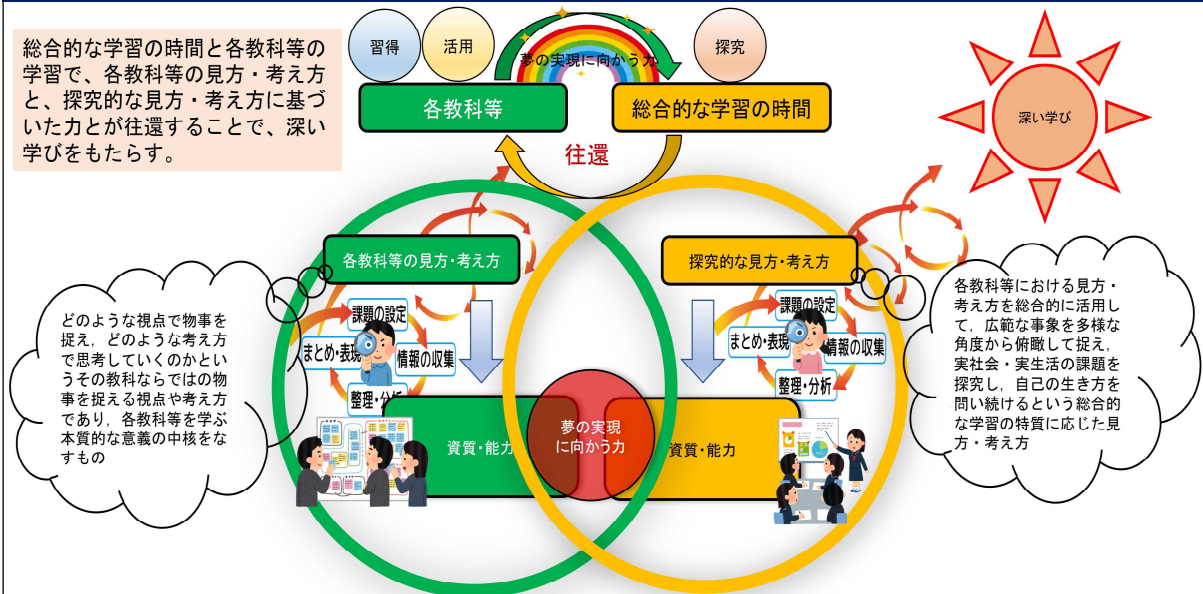
3 学年総合的な学習「ふるさと・夢プロジェクト」単元計画

時間	学習活動・内容	指導上の留意点
1 4/12	オリエンテーション 1 「総合的な学習の時間」の学習の進め方について説明を聞く。 ・ 「ふるさと・夢プロジェクト」とは ・ 探究学習の進め方	○ 指導上の留意点 ○ 評価 △ 各教科との関連 ○ 全校生対象に実施する。 ○ 総合的な学習の時間の進め方やねらいについて確認し、学習に活用しようとする。
2 4/15	村長による特別授業 1 村長からふるさと天栄村についての講話を聴く。 ・ 天栄村の魅力と課題 ・ 村づくりへの思い 2 村長に、自分や村への思いを伝える。 (例) ・ 自然豊かな環境に憧れた村にしていきたい。 ・ 高齢者が安心して暮らせる村にしていきたい。 ・ 若い人も村に残って活躍できる村にしていきたい。 ・ 災害に備えて、安心して暮らせる村にしていきたい。 3 特別授業の感想をまとめる。	○ 自分が考えたい天栄村の魅力や課題、村への思いを村長に伝えられるように準備しておく。 □ ふるさとについて主体的に探究しようとしているか (ワークシート) 【主体的に学習に取り組む態度】
3 4/19	ふるさと未来探究学習 「特約可能な村づくりを提示しよう」 【課題の設定】 1 動画を視聴し、課題の見つけ方を理解する。 ・ 課題の見つけ方 2 ふるさとの魅力と課題について付箋に5箇所ずつ書き出す。 3 KJ法を用い、班ごとに考えを整理する。 4 将来のふるさと像について考える。 ・ ふるさとの魅力と課題 ・ 将来の目指すべき村の姿 5 動画を視聴し、現代社会が抱えている課題について理解を深め、課題や疑問点を見出す。	○ 探究的な学習過程 (課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現) において、課題解決に必要な知識及び技能を身に付けさせるようとする。 ○ NIK for school 「プロのプロセス」(課題の見つけ方) 10分を視聴し、スキルを身に付けさせる。 ○ 村長の講話やこれまでの生活経験をもとに考えさせる。 ○ タブレット端末を用いて、NIK for school 「ドナルドスタイル」を視聴させる。(4つのテーマの中から興味のあるものを3つ視聴させる。)
4 4/25	「どうする？ まちが住みづらくなる」(10分) ・ 商店街の衰退、農家の後継者不足、人口減少による公共サービスの限界 ② 「どうする？ お年寄りのサポート」(10分) ・ 高齢社会、老老介護、認知症、高齢者の孤立、介護現場の人手不足 ③ 「どうする？ 大災害が起きたら」(10分) ・ 自然災害、災害に対する意識、自助・共助・公助、地域の自主防災組織 ④ 「どうする？ 自然がこわおこわい」(10分) ・ 環境問題、絶滅危惧種、人工林の放置、生活排水 6 動画を視聴したことをもとに、講座「ふるさと天栄」の講師への質問事項をまとめる。	○ 動画を視聴して、分かったことや疑問点をもち、講師への質問を考えさせる。

資料 4

「各教科と総合的な学習の時間との往還」とは

総合的な学習の時間と各教科等の学習で、各教科等の見方・考え方や、探究的な見方・考え方に基いた力が往還することで、深い学びをもたらす。



「夢の実現に向かう力」とは、各教科等で育成される資質・能力と総合的な学習の時間で育成される資質・能力との共通している資質・能力である。すなわち基礎的・汎用的能力であり、この資質・能力が各教科等と総合的な学習の時間の往還のための架け橋の役割を果たすと考える。

資料 5

教科研究計画

本校では、校内研究を推進するにあたり、教科ごとに研究計画を作成している。

研究主題・副主題を教科指導にどのように落とし込んでいくのか具体化するための手立てとして作成している。今年度は、特に教科と総合的な学習の時間の「往還」を視点に手立てを明記している。

教科指導において、「夢の実現に向かう力」を育てるために、どの資質・能力を重点的に指導するのか設定している。また、「見方・考え方」を働かせるための手立てを明記している。



国語科 研究計画

<p>構成員 亀森 恵 勝方 昭博</p> <p>令和4年度主題・副主題 研究主題 探究的に学ぶことを通して、夢の実現に向かう生徒の育成 ～「天来ならではの」教育を目指して～</p> <p>目指すべき生徒像 ○ 豊かな人間性と創造力を持ち、主体的に実践できる生徒 ・ 学習の基礎基本が定着し、学習に主体的に取り組む生徒 ・ 学習のしかたがわかり、家庭学習に継続して取り組む生徒 ・ 学び合いを通して、自己向上に取り組む生徒</p> <p>国語科における目指すべき生徒像 ○ 言葉を通して正確に理解し、適切に表現できる生徒 ・ 言葉に着目し、辞書的な意味を基に、文脈・状況に沿った意味を見出せる生徒 ・ 目的や相手に応じて、よりよい言葉や表現を選ぼうとすることができる生徒 ・ 学び合いの中で、論理的に思考し、妥当性を追求できる生徒</p> <p>研究仮説 総合的な学習の時間を核とした「ふるさと天来」についての探究的な学習の充実を図り、よりよく課題を解決し、夢の実現に向かう力を育てる実践を行えば、夢や目標を自ら設定し実現しようとする意欲を育成できるであろう。</p> <p>国語科における研究仮説 言葉に着目して言葉同士や言葉と対象の関係を問い直し、探究的な学習の中で繰り返し思考力、表現力を発揮させれば、言葉を通して正確に事象を理解し、適切に表現できる生徒を育成できるであろう。</p> <p>各教科と総合的な学習の時間の「往還」を実現するために 【国語科の見方・考え方が働くことを期待する場面】 ① どのような場面（教科内の「探究のプロセス」におけるどの段階）で働かせることを期待するか 【整理・分析】 ○ 複数の情報を比較し共通点や相違点を明らかにする。 ○ 情報の必要性を判断し取捨選択する。 【まとめ・表現】 ○ 根拠を明らかにして主張する。</p> <p>② どのような手立てで「見方・考え方」を働かせるのか 見方（どのような視点で物事を捉えるか） ○ 言葉によって表現された対象に対して比較対象を提示し、思考する対象との差に気付かせ、それ定めた場面における意味や表現の効果などについて問い直すきっかけを作る。 例えば、モデルとなる2つの言語表現を比較して、その差からそれぞれの意味の違いや働き、他の言葉との関係の違いについて考えるきっかけとする。 ○ 言葉によって表現された対象について、他の表現に置き換えた場合を仮定し、どのような差が生まれるか、意味や表現の効果などについて問い直すきっかけを作る。</p> <p>考え方（どのような考え方で思考するか） ○ 「見方」の視座を認識した通知文や通知から、対象となる言葉や表現の意味・働き、他の言葉・対象との関係などを、その文脈・状況の中で問い直す。</p>	<p>研究仮説を踏まえ、その実現のために教科でどのように生徒を育成していくのかを記述している。</p> <p>「夢の実現に向かう力」を具体的な力として設定するために、やまぐち総合教育支援センターの「探究によって育まれると期待される力」の中から教科の特質に応じて育成できると考えられる力を探究のプロセスごとに記述している。</p> <p>教科指導で育成すべき資質・能力を育成するために、どのような手立てで「見方・考え方」を働かせていくのかを記述している。</p>
--	--



学習指導案の工夫

主体的・対話的な学びの実現のためには、1回1回の授業で全ての学びが実現されるわけではない。単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、授業を構想することが大切である。そのために、単元計画を作成し、授業を構築していく。その際、単元全体を見通して、探究のプロセスに従い、問題解決的な学習を展開できるようにしている。

各教科の「研究計画」で設定した「夢の実現に向かう力」を明記することで、授業者が授業を通して、生徒にどのような力を身に付けさせたいのか意識しながら指導できるようにしている。この力が、総合的な学習の時間においても発揮できるように意識した指導をしていくことにより、往還を図っていきたい。

5 単元の主な学習活動と評価規準

時	主な学習活動	評価規準
1 2 3	【課題設定】 ・学校生活紹介ガイドに取り上げる行事等を決定する。 ・紹介に必要な情報の項目や内容を考える。 【情報の収集】 ・ガイドに掲載するための情報をインタビューやアンケートで収集する。	・後輩にとって必要であり、有益な行事等は何かと、その情報はどのようなものか考えている。(主体的態度) ・紹介するために必要な項目や内容を挙げることができる。(知識・技能) ・インタビューやアンケートの方法にしたがって情報収集できる。(知識・技能)
4 5 6 7	【情報の整理・分析】 ・集めた情報を後輩に伝わるように整理・分類する。 ・わかりやすい紙面になるように見出しや文章、図・写真などの構成を考える。 ・推敲する際のポイントを確認する。 【複数の情報を比較し共通点や相違点を明らかにする】 【情報の必要性を判断し取捨選択する】	・収集した情報を、目的に合わせて取捨選択し、思考ツールを活用して分類したり、関係づけたりすることができる。(知識・技能) ・伝えたい情報を見出しと文章、図・写真によって効果的に伝えることができる。(思考・判断・表現) ・推敲する際に目的や相手を意識し、使用した言葉や表現によって誤解なく適切に表現できているか確かめることができる。(思考・判断・表現)
8 9	【まとめ・表現】 ・作成した構成に沿って、見出しを考えながら書き、推敲する。	・後輩に伝えるためによりわかりやすい言葉や表現を、根拠をもとに選択できる。(思考・判断・表現)
10 11	・推敲の結果をもとに、清書する。	・推敲の中で学んだ改善点を生かし、伝えたいことがより伝わるガイドに修正しようとしている。(主体的態度)
12	・完成したガイドを読み合い、感想を交流する。 ・単元の振り返りをする。	・作品のまとめ方や情報活用の仕方について、よいと思ったところを評価しようとしている。(主体的態度)

学習指導案（例：数学科）

数学科学習指導案

令和4年11月21日（月） 2校時 1年1組（1の1教室） 授業者 柳橋 綾子

1 本校現職テーマ

探究的に学ぶことを通じて、夢の実現に向かう生徒の育成
 ～「天菜ならでは」の教育を目指して～

2 研究仮説

総合的な学習の時間を核とした「ふるさと天菜」についての探究的な学習の充実を図り、よりよく課題を解決し、夢の実現に向かう力を育てる実践を行えば、夢や目標を自ら設定し実現しようとする生徒を育成できるであろう。

【手だて①】「見方・考え方」を働かせ、生徒の学びが深まる工夫

【手だて②】思考の可視化、協働的な学び

3 題材名 比例と反比例 「比例のグラフ」

4 本時の構想（教材編・生徒編・指導編）と本校現職テーマ・【手だて】との関連

小学校では、数量関係の指導として、ともなう変わる2つの数量について、それらの関係を表や式に表し、この変化の様子を調べることで、ともなう変わる数量の関係を表やグラフで表し、変化の特徴を調べることを通して比例の関係を理解することについて学習してきた。

これら学習を受け、中学校1学年では、事象の中からともなう変わる2つの数量を見だし、それらの間の関係を考察し、その特徴を明らかにしたり、式やグラフに表したりして、数量関係についての学習を深めていく。比例については、小学校の学びをふり振り返りながら、文字を用いた式や表、式、グラフを用いて表現することで、変化の様子がとらえやすくなることを学習することを目指す。日常生活の具体的な場面や問題で解決する際に、直接測ったり観察したりできない目に見えない事柄について、それと関わるもう1つの事柄に注目することで、特徴を見つけて出し、場面を単純化・理想化し、表や式、グラフといふ形で表し、変化の様子を調べることで、特徴を明らかにし、今後の数学の学習にも関わる重要な考え方を学べる教材である。そのため、変化が負の数の範囲まで拡張されることにもなると、表やグラフについても丁寧に確認しながら特徴などを学習することが大切である。さらに、関数という抽象的な概念をグラフという現象的な概念で捉えやすくなるため、アニメーションなどのICT教材を効果的に用いることと、生徒の思考をひろげることができると考えられる。

本学級の生徒は、数学に対する苦手意識が強い。また、文章をよく読んで必要な情報を読み取ることが苦手である。そのため、数学の導入では、問題場面を視覚的に提示しながら考えることで課題に取り組みやすくなったり、2つの数量を見だしやすくなったりした。また、小学校段階での比例の学習については、比例の言葉の式や表の対応関係などが定着していない生徒も多くいたが、ふり振り返りながら文字を用いて一般化すること、少しずつ理解が深まってきたところである。

本時では、比例のグラフが点の集合であり、その全体が直線となることをしっかりとイメージさせたい。そのため、【手だて①】として、変数xが負の数まで広がることで比例のグラフはどのようなグラフになっているのかを予想させる問題から始めることで、生徒に課題意識を持たせたい。自分の考えが正しいのか正しくないのか、またそれはなぜかと予想を確かめるとともに、比例のグラフの特徴を見いだすという必要感が生まれる。さらに、後半では、比例定数が負の数の場合を考え、比例定数が正の場合と比較することで、小学校では知らなかった右下がりのグラフへの興味や、他のグラフもあるのだろうかという関心の深まりを期待したい。また、実際のグラフと比べて、完成したグラフやICT教材で作成したグラフをもとに、比較しながらグラフの特徴を伝え合う活動を行うことで、本時のねらいに迫ることができると考える。さらに、班でICT教材を活用し、グラフをアニメーションで捉えさせることで、直線が点の集合であるというイメージをしっかりと持たせられると考える。授業の終末では、導入で予想した問題の答えを確認し合う際に、なぜ正しいか、正しいのかの理由を本時のまとめにだてていく言葉などを使いながら確認することと、今後の数学的な表現力を高める活動に繋げていきたい。

単元	時	主な学習活動	評価規準
5 単元の主な学習活動と評価規準	1	<p>【課題設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数で学習した比例の性質やグラフの特徴を振り返る。 xの変域や比例定数の数に広げても、比例の性質が成り立つかどうかを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> xの変域や比例定数を負の数にひろげても、比例の性質が成り立つことを理解している。(知識・技能)
	2	<p>【情報の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> xの変域や比例定数が負の場合をふくめた比例の式を考える。 変域を負の数にひろげたときの比例のグラフをかくために、負の数も範囲に入れた点の位置の表し方を考える。 点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> yがxに比例するとき、1組のx、yの値からyをxの式で表すことができる。(知識・技能) 座標の意味や点の位置の表し方を理解している。(知識・技能) 点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりすることができる。(知識・技能)
	3	<p>【何が解決に役立つかを見通す】</p> <ul style="list-style-type: none"> 変域を負の数にひろげたときの比例のグラフがどのようなか、点を細かくとって調べる。 比例定数が負の場合の比例のグラフをかく、正の数の場合との共通点やちがいを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解している。(知識・技能) xが原点を越えて負の数になると、グラフもさらに左下の方へ伸びて直線になる。(知識・技能)
	4 (本時)	<p>【情報の整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 比例について、xの値が増加するときのyの値の変化の様子を、比例定数が正の場合と負の場合で、表やグラフを用いて調べる。 比例のグラフの特徴をもとに、グラフをかく。 比例の性質を調べる方法を振り返る。 <p>【複数の情報を組み合わせて新しい関係性を創り出す】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 比例について、xの値が増加するときのyの値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉え、説明することができる。(思考・判断・表現) 比例の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉えようとしている。(主体的態度)
	5	<p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 比例の表やグラフから式を求めることができる。 比例の表、式、グラフのどこに比例定数が表れるかをまとめる。 比例のグラフから式を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 比例のグラフから式を求めることができる。(知識・技能) 比例の表やグラフから式を求め、説明することができる。(思考・判断・表現) 比例について学んだことを生かして、比例の表、式、グラフを関連づけて捉えようとしている。(主体的態度)
	6 本時の学習指導 (1) 本時のねらい	<p>比例の式から表をつくり、$y = ax$ のグラフがどんなグラフになるか、多くの点をとって調べることから、比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解することができる。</p>	

(2) 学習過程	学習活動、内容	予想される生徒の反応	評価
1	<p>既習事項をふり返る。</p> <p>(1) 比例のグラフについて考える。</p> <p>(2) xの変域を負の数までひろげたときの比例のグラフを予想する。</p>	<p>1 既習事項をふり返る。</p> <p>(1) 比例のグラフについて考える。</p> <p>(2) xの変域を負の数までひろげたときの比例のグラフを予想する。</p>	<p>◎主な支援・留意点 ●評価</p> <p>◎小学校で習った比例のグラフについてふり返る。小学校で習った言葉で確認する。 【グラフは直線になり、0の点を通る】</p> <p>◎前時にかいた、xの変域が正の数と負の数とを比べたときの比例のグラフが、xの変域を負の数までひろげるとどのようなグラフになるかを予想し、グラフ用紙に記入させる。 【手だて①】</p>
2	<p>学習課題を把握する。</p> <p>比例 $y = ax$ のグラフは、どのようなグラフになるだろうか。</p>	<p>2 学習課題を把握する。</p> <p>比例 $y = ax$ のグラフは、どのようなグラフになるだろうか。</p>	<p>◎ $y = 2x$ について、表をもとに座標をとる際、xの値が整数のときの点を直線で結んでしまうと生徒には、表にない x、yの値の組も本当に直線上にあるのか考えさせ、xの値が小数の場合も調べてできる限り細かく点をとっていくことが小数の場合も調べていくことと伝える。計算に時間を取られないよう、必要な場合は、電卓を使用して計算する。具体的な活動から、グラフは点の集まりであることを見かたさせる。また、ICT教材を活用することで、さらに効果的にイメージを持たせる。 【手だて②】</p>
3	<p>問題に取り組む。</p> <p>(1) 変域を負の数までひろげたときの $y = 2x$ のグラフについて考える。</p> <p>・小学校のときと同じように、表から座標をとっていき、直線が引ける。</p> <p>・小学校のときと同じように、xが負の範囲でも直線になりそう。</p> <p>(2) できたグラフから、どんなことが分かるか班で共有する。</p> <p>・xが原点を越えて負の数になると、グラフもさらに左下の方へ伸びて直線になる。</p> <p>・原点を通っている。</p> <p>(3) 他のいくつかの式でも確認する。</p> <p>$y = x$、$y = 3x$、$y = 5x$ などのグラフをかく。</p> <p>(4) 比例定数が負の場合の $y = -2x$ のグラフについて考える。</p> <p>・比例定数が負の場合も直線になる。</p> <p>・グラフが $y = 2x$ のときと逆に傾いている。</p> <p>・y軸で反転した形になっている。</p> <p>(5) 比例定数が正の場合と負の場合のグラフを比べて、共通点やちがいを確認していく。</p> <p>・共通点) 原点を通る直線だ。</p> <p>・ちがい) 比例定数が正のときは右上がり、負のときは右下がりの直線になる。</p>	<p>3 問題に取り組む。</p> <p>(1) 変域を負の数までひろげたときの $y = 2x$ のグラフについて考える。</p> <p>・小学校のときと同じように、表から座標をとっていき、直線が引ける。</p> <p>・小学校のときと同じように、xが負の範囲でも直線になりそう。</p> <p>(2) できたグラフから、どんなことが分かるか班で共有する。</p> <p>・xが原点を越えて負の数になると、グラフもさらに左下の方へ伸びて直線になる。</p> <p>・原点を通っている。</p> <p>(3) 他のいくつかの式でも確認する。</p> <p>$y = x$、$y = 3x$、$y = 5x$ などのグラフをかく。</p> <p>(4) 比例定数が負の場合の $y = -2x$ のグラフについて考える。</p> <p>・比例定数が負の場合も直線になる。</p> <p>・グラフが $y = 2x$ のときと逆に傾いている。</p> <p>・y軸で反転した形になっている。</p> <p>(5) 比例定数が正の場合と負の場合のグラフを比べて、共通点やちがいを確認していく。</p> <p>・共通点) 原点を通る直線だ。</p> <p>・ちがい) 比例定数が正のときは右上がり、負のときは右下がりの直線になる。</p>	
4	<p>本時の学習内容をふり返る。</p> <p>・比例のグラフの特徴をまとめる。</p> <p>比例のグラフでは対応する点の集まりは1つの直線になる。このようにして得られた直線を</p> <p>比例 $y = ax$ のグラフ という。</p> <p>【比例のグラフは原点を通る直線になる。】</p>	<p>4 本時の学習内容をふり返る。</p> <p>・比例のグラフの特徴をまとめる。</p> <p>比例のグラフでは対応する点の集まりは1つの直線になる。このようにして得られた直線を</p> <p>比例 $y = ax$ のグラフ という。</p> <p>【比例のグラフは原点を通る直線になる。】</p>	<p>◎本時の学習内容や活動を振り返り、比例のグラフの特徴をまとめる。</p> <p>◎予想した問題の答えとその理由を本時のまとめから確認していく。</p>

資料6 「NHK for school」の番組コンテンツの活用（例：3学年）

1, 次の4つの視点から3つの動画 (NHK for school) を選んで、タブレットでそれぞれ視聴しましょう。
 ⇒ 「ドスルコスル」で検索
 ↓視聴するものに
 動画①: 「どうする？ まちが住みづらくなる (10分)」 (地域の活性化の視点)
 動画②: 「どうする？ お年寄りのサポート (10分)」 (地域の高齢化の視点)
 動画③: 「どうする？ 大災害がおきたら (10分)」 (災害・防災の視点)
 動画④: 「どうする？ 自然がこわれていく (10分)」 (地域の自然環境の視点)

2, 選んだ動画ごとに、下の表に ア 課題だと感じること イ 疑問に思うこと をまとめましょう。

選んだ動画	ア 課題だと感じること	イ 疑問に思うこと
例動画①まちが住みづらくなる	例 商店街の商売を継ぐ人がいないこと	例 なぜ若者たちは地元(商店街)に獲ってくれないのか?
① まちが住みづらくなる	商店街ではなく大型スーパーに行ってしまう 継ぐ人がいない 産業の後継者不足 人口が不足している → 税金が少なくなる	地方から東京などの都会に若者がいなくなるのはなぜか。 ↓ 田舎にいたくない トレンドを求めている?
② お年寄りのサポート	老老介護を要する人がたくさんいる お年寄りの孤立で孤独死してしまう 介護スタッフが足りない	高齢者の居場所を作らないのはどうしてか、介護施設、地域の集会所など 長生き=いいことじゃない...?
③ 自然がこわれていく	多くの生き物が絶滅している。 山・干潟の消失などで生き物のすみかが減り続けている。 ほったらかしにされている森林。(シカの餌かみ) 川が海へ汚れる(汚水による)	森林の管理はなぜがされているのか ↓ 木を伐さずする人がいない?

<主に活用した「NHK for school」の番組コンテンツ>

- 「ドスルコスル」 社会の諸課題と、それに向き合う子どもたちの姿をセットで紹介した番組
- 「アクティブ10 プロのプロセス」 “社会を生き抜く術” を情報のプロから学ぶ番組

資料7

思考ツール・タブレット端末の活用(例)

整理・分析



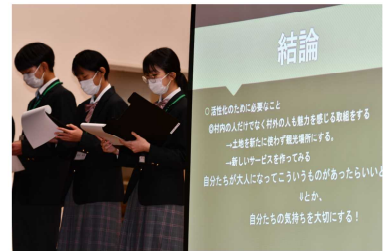
自分たちの自由に出し合った考えを、分類して整理し、新たな考えを生み出すために思考ツールを活用した。



まとめ・発表



自分で体験したことを、写真や資料を取り入れながら、職場体験記としてまとめた。



自分たちで探究したことをまとめ、プレゼンテーションをして、持続可能な村づくりとして提言した。

結論

活性化のためには
 ① 村内の人だけでなく村外の人も魅力を感じる施策をする
 ② 土産を売りにする観光場所にする。
 ③ 新しいサービスを提供する
 自分たちが大人になってこういうものがあつたらいい
 とか、
 自分たちの気持ちを大切に!

資料 8

地域人材の活用(例)「村長による特別授業」



村の魅力について「豊かな自然があり、水がきれいであること。その水を使って、米や日本酒、長ネギやヤーコンなどの農産物、豆腐や味噌などの加工品が作られ、国内有数の高い品質を誇っている。これらは、作る人の努力によるものである。だから、生徒の皆さんを含む村民が自慢である。」また、本校生徒に対して「村のために活躍できる人になってほしい。人は誰かのためにとなると力を発揮できる。夢や目標を見出すことは難しいが、誰かのために何かやりたいという思いを持つことで、自分の力を発揮してほしい。」

4月15日(金)に全校生を対象に「村長による特別授業」が実施され、添田勝幸村長から天栄村の魅力などについて教えていただきました。
この特別授業は、総合的な学習の時間「ふるさと・夢プロジェクト」の第1回目の授業として実施されました。



資料 9 「ふるさと魅力発見学習」振り返りカード (1学年)

<p>5 ふるさと魅力発見学習Ⅱ</p> <p>【課題の設定】①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を設定し、解決に向けた計画を立てる。 ・「ふるさとの自然環境と環境保全に取り組む人々」 ・「ふるさとの伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々」など 	<p>【自己評価】当てはまるもの全てに○をつけよう</p> <p>課題「^{ふるさと}がたぐさんいるので、^{見ているので}かない</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 仮説を立てて検証方法を考えることができた ② 班の人と協力して仮説を立てることができた ③ 班で考えた仮説について興味を持つことができた。 	<p>【反省】</p> <p>班のみんなと協力して、仮説を立てることができた。</p>
<p>【情報の収集】②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 設定した課題についての情報を収集する。(関係課、関係者等) ○ ふるさとの自然や歴史・文化の体験・見学 ・ 湯本地区での森林学習 ・ ふるさと伝承館見学 	<p>【自己評価】当てはまるもの全てに○をつけよう</p> <p>課題の解決に向けて、適切に情報を収集することができた</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題解決に必要な技能を身に付けることができた。 <p>(さらに下の当てはまるものに○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電話のかけ方 ・ インタビューの仕方 ・ 現地調査の方法 ・ 礼状の書き方 	<p>【反省】</p> <p>森林学習では、動物や植物などの情報を収集できた。</p>
<p>【整理・分析】③</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 収集した情報について、視点を決めて分析し、今後の取組の方向性を考える。 <p>【まとめ・表現】⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの課題から分かった天栄村の特色や未来に伝え残したいものやことについて、プレゼンテーションソフトを使ってまとめ、文化祭で発表する。 	<p>【自己評価】当てはまるもの全てに○をつけよう</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 視点を決めて多様な情報を分析することができた ② 壁新聞を作成し、「課題・仮説・検証・結論」が見ている人にわかりやすいようにまとめることができた。 ③ 壁新聞のレイアウトを工夫することができた。 ④ 班の人と協力して壁新聞作成をすることができた。 ⑤ 文化祭でのステージ発表に向けて、班での自分の係りの仕事を積極的に進めることができた。 ⑥ 発表に向けて話し合う中で、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重することができた。 ⑦ 見ている人に伝わりやすいような発表になるように、声の大きさや動作などを工夫することができた。 ⑧ 発表練習に真剣に取り組むことができた。 ⑨ 発表練習に班の人と協力して取り組むことができた。 ⑩ プレゼンテーションソフトを使って発表に向けた資料を作ることができた。 	<p>【反省】</p> <p>親聞のとりにては、レイアウトを工夫して分かりやすいように作成できた。文化祭発表では、積極的に準備に取り組みることができた。本番では楽しんで発表することができた。</p>
<p>【文化祭での係り】</p> <p>シリオ 小道具</p> <p>プレゼンテーションソフト</p> <p>【文化祭での配役】</p> <p>イラスト</p> <p>【学び方について】の自己評価 当てはまるものに○をつけよう</p> <ol style="list-style-type: none"> A. グループで協力して学習を進め、主体的に自分の思考を整理したり、深めたりして学ぶことができた。 B. グループで協力して学習を進め、自分の思考を整理して学ぶことができた。 C. 授業中に指示された内容を理解し、精一杯授業に参加することができた。 ④ 他者と協力して活動することができなかった <p>【反省】なぜそのように評価したか</p> <p>班のみんなと協力して発表準備などをして、みんなでまとまって活動することができたから。</p>		<p>【総合的な学習の時間で特に身につけられたと思う力・特に自分が力を発揮することができた場面について】</p> <p>文化祭発表では、みんなをまとめることが得意になった。</p>

資料10 特産品PRのためのキャラクター（2学年）

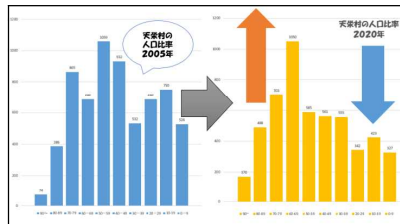


本村の「こども未来応援事業」を活用して、考案したキャラクターがデザインされた「シール」「ポップ」「マスキングテープ」を製品化した。

これらは、2年次の学習で、特産品のPRのために活用する予定である。

資料11 「持続可能な村づくりへの提言（高齢化対策）」（3学年）

湯本の高齢者が安心して暮らすには



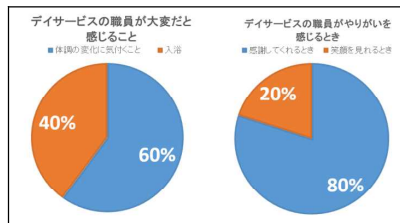
湯本の高齢者が安心して暮らすには
湯本の高齢者の問題

一人で生活している高齢者を助けたいと思ったから

仮説

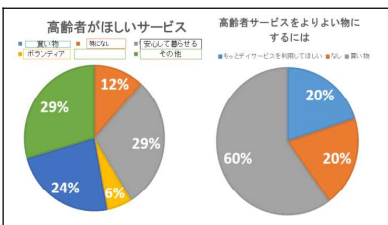
解決のための手立て

- ・買い物に行ける高齢者だけが乗れるシャトルバスを出す。
- ・支援する人を増やしたり、関わる機会を増やす。



アンケートから〈職員の方〉

- ・デイサービスの職員がやりがいを感じる時 感謝してくれるとき、笑顔を見れるときなど
- ・デイサービスの職員が大変だと感じる時 体調の変化に気付くこと、入浴など
- ・これからの課題は もっとデイサービスの利用者が増えてほしい、買い物など



アンケートから〈利用者の方〉

- ・デイサービスを利用する高齢者の方がほしいサービス

安心して暮らせるサービス、ボランティア、簡単に買い物できるサービス、など

まとめ1

湯本の高齢者が安心して暮らすためには...

時間帯	全12人	本町	全8人	湯本	全9人
6:00~	0	1本	5	10円~	0
9:00~	5	2本	2	100円~	4
13:00~	5	3本以上	1	その他	5
16:00~	3				

・買い物に利用できるようなシャトルバスを出したほうが良い！
できるなら、正午前後の時間帯

まとめ2

- ・支援者を増やしたほうが良いという仮説は間違っていた(アンケートより)
- 高齢者の方々と関わる機会や、ボランティアを設けると良いのでは？

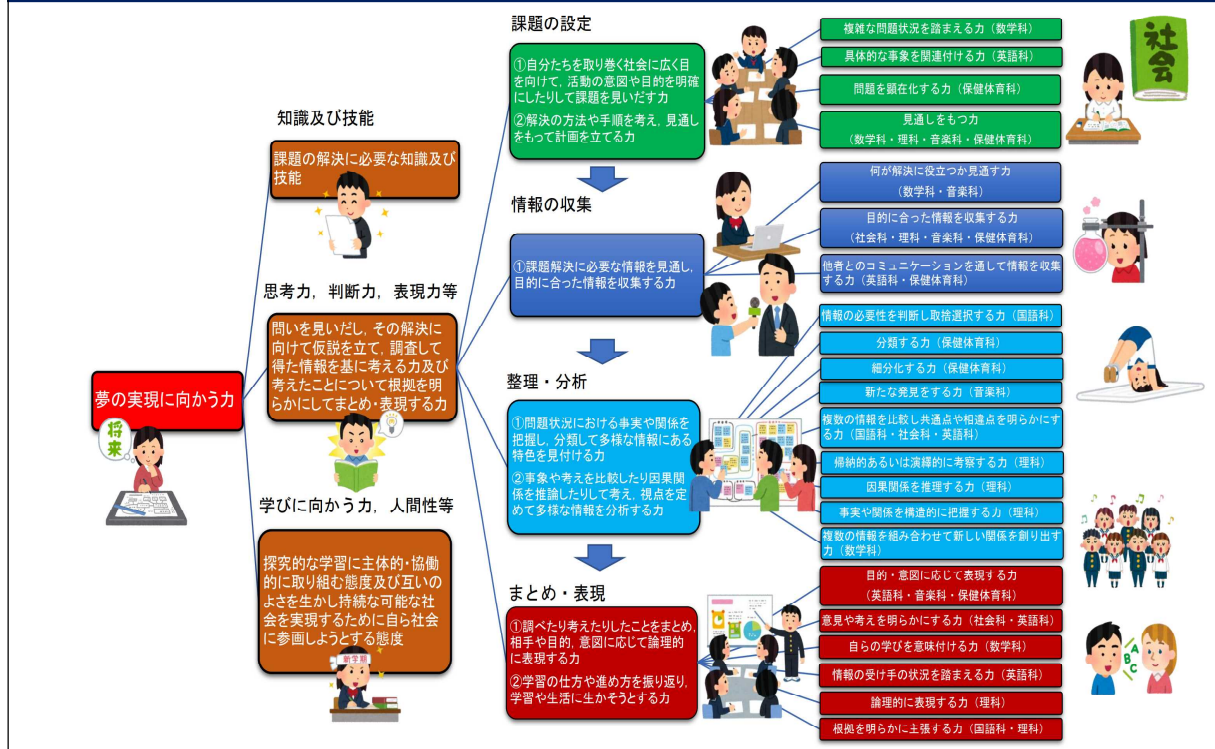
ありがとうございました！

おしまい

「まとめ・表現」として、学習したことを「持続可能な村づくりへの提言」として発表用スライドにまとめ、文化祭で保護者や地域の方に発信した。

資料12

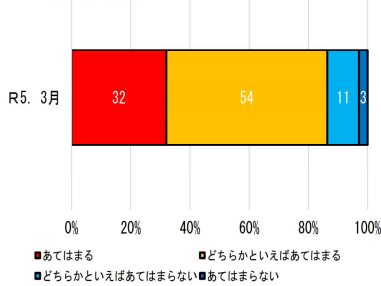
育成を目指す資質・能力 「夢の実現に向かう力」とは



資料13-①

学習に関する意識調査の結果と考察①

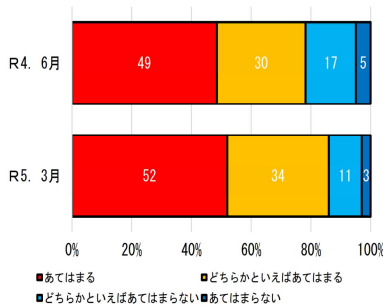
「ふるさと・夢プロジェクト」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



考察

総合的な学習において、生徒が探究的な学習を行っていると感じているかを検証するための質問である。全体の86%の生徒は、「ふるさと・夢プロジェクト」の学習において、「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」という探究のプロセスに沿って学習していると実感していることが分かる。年間を通して、問題解決的な学習を繰り返し行ってきた成果が現れている。

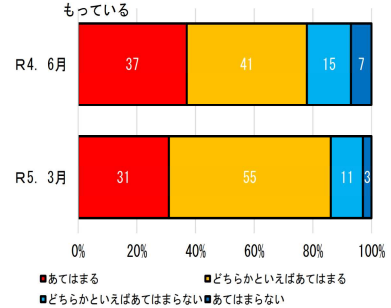
将来の夢や目標をもっている



考察

総合的な学習の時間「ふるさと・夢プロジェクト」の学習を通して、生徒が自己の夢や目標をもつことができたかを検証するための質問である。事前と事後の調査結果を比較すると、夢や目標をもつことができた肯定的にとらえている生徒の割合は、79%から86%と7ポイントの上昇が見られた。「ふるさと・夢プロジェクト」の学習によって、自分のなりたい姿をイメージできているといえる。

天栄村の歴史や自然、文化、産業、村づくりに関心をもっている

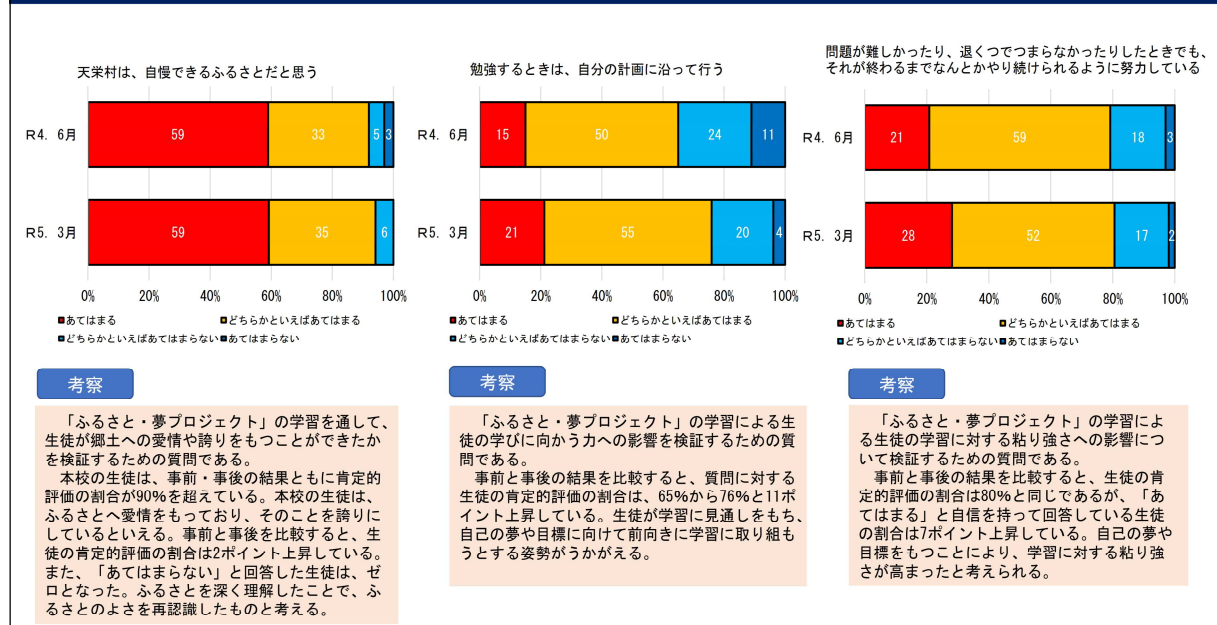


考察

総合的な学習の時間のテーマになっている「ふるさと」への関心度を検証するための質問である。ふるさとについての探究的な学びを通して、生徒のふるさとへの関心は、事前と事後を比較すると生徒の肯定的評価の割合は、78%から86%と8ポイント上昇している。ふるさとをテーマに探究的な学習を通して、ふるさとに対する理解も深まったことで、関心が高まったものと考えられる。

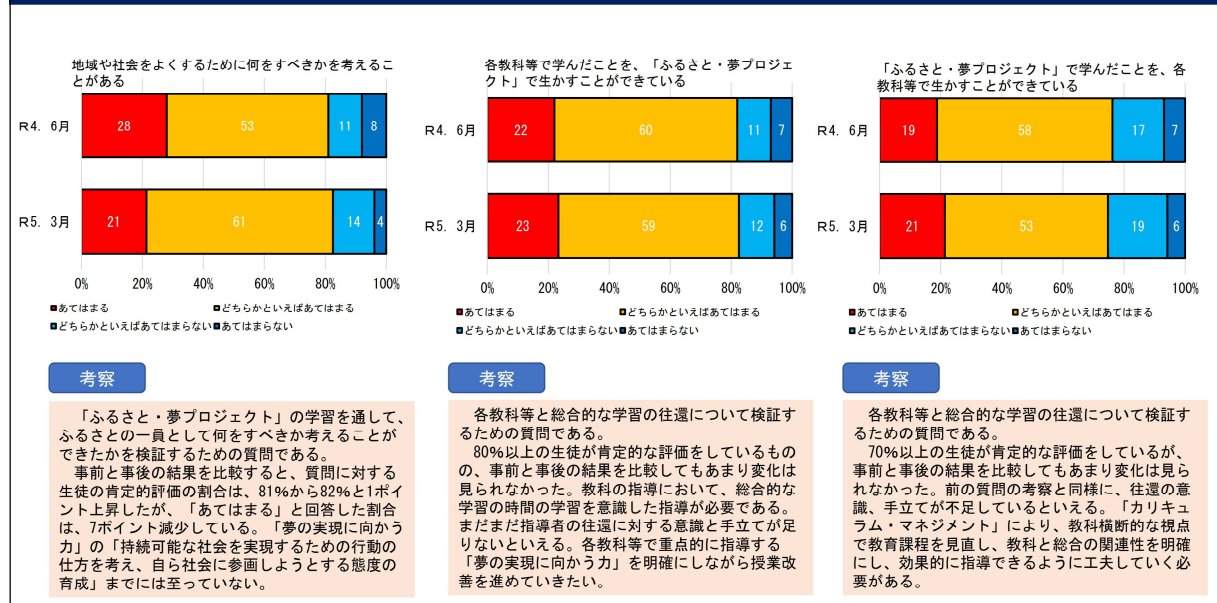
資料13-②

学習に関する意識調査の結果と考察②



資料13-③

学習に関する意識調査の結果と考察③



<主な参考文献・資料>

やまぐち総合教育支援センター (2021) 『やまぐち総合教育支援センター研究紀要161集』 第1巻
 文部科学省 (2018) 『学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編』
 田村学 (2015) 『授業を磨く』 東洋館出版社 (2018) 『深い学び』 東洋館出版社
 大分県教育委員会HP 「総合的な学習の時間 全体計画例・単元プラン例の公開について」
 (<https://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/post-124.html>)